

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
小野市	河合中町	令和2年7月22日	平成29年3月31日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	68.0ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	63.4ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	19.1ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	10.0ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	13ha
(備考)	

- 注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。  
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。  
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。  
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

現状は、70歳以上の耕作者が51%であり、後継者がいない耕作者についても46%である。高齢化及び後継者不足という課題を抱えていることから、現在耕作している農地を維持することで精一杯であるという耕作者が多く、地域の担い手においても経営規模を拡大したいと考えている経営体は少数である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

農地利用は、中心経営体で認定農業者、認定新規就農者である若手の経営体が主に担うほか、農事組合法人、集落営農組織といった他の中心経営体で現状を維持しながら、さらなる作付けが可能であれば当面は担っていく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A	水稲、麦	9 ha	水稲、麦	11 ha	河合地区
認就	B	水稲	1 ha	水稲	12 ha	河合地区
認農法	C	水稲、野菜	11.8 ha	水稲、野菜	11.8 ha	河合地区
集	D	水稲、野菜	2 ha	水稲、野菜	2 ha	河合地区
集	E	水稲、麦	3 ha	水稲、麦	3 ha	河合地区
認農	F	水稲	1.5 ha	水稲	1.5 ha	河合地区
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
計			28.3 ha		41.3 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地の貸付け等の意向

貸付け等の意向が確認された農地は、33筆、50,230㎡となっている。

鳥獣被害防止策

イノシシ対策として、侵入防護柵、電気柵を設置し、継続的に点検保守を行う。

農地中間管理機構の活用方針

中心経営体が病気や怪我などの事情で営農の継続が困難となった場合等を想定し、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えが円滑に進むよう、農地中間管理事業の活用を検討していく。